

国語科「論理国語」 学習指導案
単元名（題材名）「題材文の論理展開を活用して、説得力のある意見文を書こう」
（中村桃子「言葉がつくる女と男」）

令和7年10月 第2学年 指導者 松本 侑馬

I 単元（題材）の構想

1 単元観（題材観）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編では、今回の改訂の趣旨及び要点について、高等学校国語科で「話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」という中央教育審議会答申における指摘を受けて、「『古典探究』を除く科目において、〔思考力、判断力、表現力等〕に『書くこと』の領域を設け、論理的な文章、文学的文章、実用的な文章を書く資質・能力の充実を図った」と記載されている。「論理国語」において、「読むこと」領域で80～90時間に対して「書くこと」領域で50～60時間の授業を行うよう明記されていることから、「書くこと」領域の指導の充実に向けた取り組みをしていく必要があることが分かる。

そこで、今回は「書くこと」領域の指導事項(1)エ「多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること」ができるようになることを目標に単元を構想した。

題材となる「言葉がつくる女と男」で筆者は、個人のアイデンティティは言語行為を通して構築されると考える「構築主義」の立場から、言葉にはアイデンティティを構築するための資源としてのほたらきがあるという主張を述べるために、アイデンティティは個人にあらかじめ備わっている属性だと考える「本質主義」の立場を取り上げて批判している。始めに論点と主張を述べ、次に一般的な考え方とその問題点を指摘し、自説の根拠となる考え方を展開して、再度主張を詳しく述べる、という流れが明確な文章である。そのため、論理展開を捉えやすく、また二項対立の一方を批判して自分の主張を際立たせるという工夫を読み取ることも容易である。ゆえに、題材文を構造的に読み、段落同士の間関係をつかみ、説得力をもたせるための工夫を考えるのに適している。

単元の流れとしては、まずは題材文に書かれている内容や、段落同士がどうつながっているか、そしてその内容やつながりが文章の説得力にどのような影響を与えているかを分析し、文章に説得力をもたせるための工夫を抽出する。次に、題材文の論理展開や書き方の工夫を活用して説得力のある意見文を書くための構想メモを作成する。構想メモの形式は、題材文の論理展開の肝となる主張と根拠のつながりや、異なる立場の問題点の指摘を中心に考えるものとした。さらに、構想メモを多面的・多角的な視点から見直し吟味するためにCanvaのワークシートを用いて批評会を行う。この活動は、他者からの意見を自分の文章作成に生かしやすいよう、着眼点を主張と根拠のつながりや、異なる立場の問題点の指摘に絞って行う。また、構想メモの記載者とコメントの記入者を互いに匿名とすることで、忌憚のない批評ができるよう配慮する。次に、批評会を踏まえて改善した構想メモに基づいて意見文を作成する。最後に意見文についての批評会を行い、単元の学習を通してどんな力が身に付いたのかを振り返る。

これらの学習活動を通して、生徒には多面的・多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ね、説得力のある意見文を記述する力を身に付けさせたい。

2 研究との関わり

研究協力校の生徒は国語の授業において、教員の説明を熱心に聞いて知識を身に付け、それを基に題材文の内容や読解の方略についてグループで意欲的に話し合う様子や、研究論文を参照しながら文学作品を探究的に読み、自分の考えをスライド資料にまとめて堂々と発表する様子が見られる。

一方で、自分の主張で他者の考えや行動の変容を促すという目的で、自分の考えや根拠を見つめ直し、文章の説得力を高めていくことには課題がある。本単元以前に行った「書くこと」単元でも、示された型やルールに則って書くことはできるものの、異なる立場の読み手を想定することや主張を根拠づけることは十分にできてはいなかった。

そこで、本研究では「説得力のある意見文を書くことのできる生徒の育成」を主題として設定した。ここでは意見文を「他者の考えや行動の変容を促すために自らの主張や考えを表現する文章」と位置付け、他者による批評を取り入れながら意見文を書き上げる過程を通して、多面的・多角的な視点から自分の考えを吟味し、立場の異なる読み手を説得できるような意見文を書く力を身に付けさせるこ

とをねらいとした。

その上で、単元を通して以下の二つの手立てを講じ、授業実践を行った。

○手立て1 評論文の論理展開を読み取り、それに基づいて意見文の構想メモを作成する活動

- ・説得力のある文章の模範としての、教科書教材の論理展開の分析・活用
- ・意見文の基となる構想メモの作成

○手立て2 他者と批評し合うことを通して構想メモを改善し、それに基づいて意見文を書く活動

- ・匿名での批評会による多面的・多角的な考えの収集
- ・収集した多面的・多角的な考えに基づいた、自分の考えの吟味
- ・構想メモを基にした説得力のある意見文の作成

3 単元（題材）の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。 (1)エ	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を書く際の論理展開や引用の扱いについて学習している。 ・書く文章の目的に応じた構成や展開の仕方について、さらに理解を深めていく必要がある。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。 A(1)エ	<ul style="list-style-type: none"> ・型通りに文章を書くことはできるが、根拠を吟味し説得力を高める工夫をすることには課題がある。 ・他者からの批評を参考に自分の表現を見つめ直し、説得力のある文章表現ができるようになる必要がある。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度がある一方で、相手に正しく伝わるよう自己の文章表現を吟味する態度には課題がある。 ・言葉を通して他者に自己の意見を正しく伝えるために、自己の文章表現を吟味する態度を養う必要がある。

4 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・説得力のある文章を書く活動において、文章の論理展開や内容の整合性を考え、粘り強く自己の文章表現を調整しようとしている。

5 指導及び評価の計画（全8時間：本時第5時）

過程	時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
つかむ	1	<input type="checkbox"/> 意見文に説得力をもたせる工夫について考え、Canva のワークシートに意見を出し、K J法でまとめる。 <input type="checkbox"/> 題材文を読み、納得感があるか考える。 <input type="checkbox"/> 題材文の説得力を生んでいる工夫を捉え、その工夫を活用して説得力のある意見文を書くという単元の流れを理解する。 <input type="checkbox"/> 題材文の論理展開を分析する。（個人）			○	◆文章を通じて他者に主張を伝えるにはどのような工夫が必要かを考え、学習の見通しをもっている。<観察・ワークシート（態①）>
	[単元・題材の学習課題] 題材文の論理展開を活用して、説得力のある意見文を書こう。					
追究する	2	<input type="checkbox"/> 題材文の論理展開を分析する。（グループ） <input type="checkbox"/> 全体で論理展開の分析結果を共有し、確認する。 <input type="checkbox"/> 意見文に説得力をもたせるために、筆者が施している工夫についてCanva のワークシートに意見を出し、KJ法でまとめる。	●			◆主張と根拠のつながりや異なる立場の問題点の指摘、具体例、引用などが意見文の説得力を生んでいることを理解している。<ワークシート・振り返り（知①）>
	[本時のめあて] 題材文の論理展開を分析し、説得力もたせるための工夫を考えよう。					
追究する	3	<input type="checkbox"/> 前時までの学習を振り返り、題材文が「A論点と主張」、「B異なる立場の考え方」、「C異なる立場の問題点」、「D主張の裏付けとなる根拠・主張と根拠のつながり」、「E主張をより詳しく」という論理展開になっていることを確認する。 <input type="checkbox"/> 「教科書はデジタルに移行すべきか」というテーマを示し、意見文の組み立て方（A～E）をCanva のワークシートを用いて学習する。	○			◆題材文を参考に、「A論点と主張」、「B異なる立場の考え方」、「C異なる立場の問題点」、「D主張の裏付けとなる根拠・主張と根拠のつながり」、「E主張をより詳しく」という意見文の組み立て方を理解している。<ワークシート・振り返り（知①）>
	[本時のめあて] 題材文の論理展開を活用して、意見文の組み立て方を理解しよう。					

4	<input type="checkbox"/> 「16 歳未満の SNS 利用は禁止すべきか」、または「学校指定の制服は廃止すべきか」というテーマで文章を書く見通しをもつ。 <input type="checkbox"/> 示されたテーマについて、400 字以上の文章を書くための構想メモ（紙）を作成する。「D 主張の裏付けとなる根拠・主張と根拠のつながり」が「A 論点と主張」の裏付けとして機能しているかということ、「B 異なる立場の考え方」の分析と「C 異なる立場の問題点」の指摘は的確か、という点に留意する。根拠の材料を探す際は、教員の示す統計資料を活用する。 <input type="checkbox"/> 構想メモ（紙）から、説得力のある内容を抽出して構想メモ（Canva のワークシート）に転記する。	○		◆ 「D 主張の裏付けとなる根拠・主張と根拠のつながり」が「A 論点と主張」の裏付けとして機能しているかということ、「B 異なる立場の考え方」と「C 異なる立場の問題点」の分析は的確かということ意識しながら、構想メモを作成している。＜ワークシート（思①）＞
[本時のめあて] 論理展開を意識して、説得力のある意見文を書くための構想メモを作成しよう。				
5 (本時)	<input type="checkbox"/> 構想メモの内容を個人とグループで批評し合う。批評の項目は、①根拠は主張の裏付けとして正しく機能しているか、②異なる立場の分析は的確か、③その他、とする。 <input type="checkbox"/> 他者からの批評コメントを基に、構想メモの改善の方針を立てる。	○		◆ 他者からの批評コメントに基づいて論理的に思考し、構想メモを改善している。＜ワークシート・振り返り（思①）＞
[本時のめあて] 他者の批評を取り入れ、意見文作成を意識して構想メモ改善の方針を立てよう。				
6 ・ 7	<input type="checkbox"/> 前回もらった批評コメントを基に、構想メモを改善する。 <input type="checkbox"/> 改善した構想メモを基に Google スプレッドシートのワークシートを用いて説得力のある意見文（400 字以上）を作成する。	○		◆ 主張と根拠のつながり、異なる立場の問題点の指摘を意識して、説得力のある文章を作成している。＜ワークシート（思①）＞
[本時のめあて] 構想メモを基に、説得力のある意見文を作成しよう。				
振り返る	<input type="checkbox"/> 作成した意見文を批評し合う。批評の項目は、①根拠は主張の裏付けとして正しく機能しているか、②異なる立場の分析は的確か、③その他、とする。 <input type="checkbox"/> 単元の学習を振り返り、どんな力が身に付いたか確認する。	●	●	◆ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。＜ワークシート・振り返り（思①）＞ ◆ 説得力のある意見文を書くために、粘り強く自己の文章表現を調整しようとしている。＜振り返り（態①）＞
[本時のめあて] 意見文を批評し合い、どんな力が身に付いたか振り返ろう。				

II 第5時の学習

- 1 ねらい 構想メモを批評し合う活動を通して、意見文の根拠や論拠の吟味を重ね、主張を明確にすることができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 前時の学習内容を確認するとともに、本時の流れをつかむ。 (導入 7分)</p> <p>S：前時では論理的な文章を作成するための構想メモを作成した。今日の批評会で、改善のためのアイデアをもらおう。</p> <p>S：先生が示した、批評会での着眼点を意識しておこう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈めあて・課題〉 他者の批評を取り入れ、意見文作成を意識して構想メモ改善の方針を立てよう。</p> </div>	<p>◎他者からの評価・批評コメントに基づいて、自分の意見文の内容を吟味することが目的だと伝える。</p> <p>○客観的な批評ができるように、構想メモを書いた相手と異なる立場に立って批評するよう促す。</p> <p>○批評のポイントが明確になるように、批評会の着眼点を以下のように示す。</p> <p>①根拠は主張の裏付けとして正しく機能しているか</p> <p>②異なる立場の分析は的確か</p> <p>③その他</p>
<p>2 批評対象となる構想メモ（Canva ワークシート）を読み、個人による批評を行う。 (展開① 15分)</p> <p>S：主張と根拠のつながりが曖昧だから、もっと丁寧に説明する必要があるんじゃないかな。</p> <p>S：異なる立場を想定してはいるけど、本当にこんなふうを考える人がいるのかな。もっと一般的な考え方を想定したほうが説得力が出そうだ。</p>	<p>◎番号のみ振り分けた匿名の構想メモ（Canva ワークシート）に、匿名で批評コメントを記入する形式をとる。</p> <p>○批評コメントがどの記述へのコメントなのか明確に伝わるように、「『 』という記述について～」というテンプレートを用意しておく。</p> <p>○批評会で忌憚のない意見交換ができるように、「相手を成長させるための批評」であることを伝える。</p>
<p>3 グループに分かれて、構想メモの内容について批評会を行う。 (展開② 23分)</p> <p>S：グループの意見を総合すると、主張と根拠のつながりが不十分だから、「まだ伸び代がある」に○をつけよう。</p> <p>S：異なる立場の考えには、例えば「●●」というものもあるんじゃないかな。個人で貼った付箋に加筆して伝えよう。</p>	<p>◎個人で批評コメントを記入した構想メモについて、グループで協議して3段階の評価を決める。</p> <p>○4人1組でグループをつくり、4分の協議を4回行う。</p> <p>○評価の段階は「完璧にできている」、「まだ伸び代がある」、「よく考え直すべき」の3段階とする。</p> <p>○協議の中で出た新たな視点や深い考えも批評相手に伝えられるよう、必要に応じて批評コメントを加筆する。</p>
<p>4 他者からの評価及び批評コメントを基に、構想メモに気づいたことや改善の方針を記入する。 (終末 5分)</p> <p>S：主張と根拠のつながりが曖昧だという意見をもらったから、主張と根拠のつながりを説明する文を入れよう。</p> <p>S：異なる立場の想定が極端だという意見をもらったので、考え直して書いてみよう。</p>	<p>◎他者からのコメントによって気付いたことを整理し、次回の文章作成に向けて構想メモを改善する。</p> <p>○グループ内で、それぞれの改善の方針を共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目（思①） 他者からの批評コメントに基づいて論理的に思考し、構想メモを改善している。〈ワークシート〉</p> </div>

